

創立50周年記念

商 工 名 鑑

1997

太田商工会議所

発刊のことば



太田商工会議所

会頭

本島虎太

太田商工会議所が50周年を迎えその良き節目に当り、会議所会頭としてご挨拶が出来ますことは、誠に光栄であり希有の輪廻かと、感激のいたりであります。数ある商工会議所のなかでも戦後の幾多の経済的、社会的、そして政治的変化のなかで、特筆に値する発展を遂げる事が出来た事は、先人の方々の素晴らしい決断、実行とご努力により結実したものと改めて深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第であります。

太田地域は江戸の昔より、明治・大正にかけ大光院と例幣使街道の小さな商業集積のある宿場町でありました。しかし、大正9年中島知久平氏が航空機産業を手がけ、第二次世界大戦の勃発で大增産となり、大工場群と多数の技術者を中心に一大産業地域に変貌するにいたったわけでありました。また、戦後の財閥解体により、人口も激減し産業は完全に衰退し、太田市及びその周辺都市は一種の空洞化、脱力化の現象が起りましたが、太田商工会議所は正にその荒廃のなかから、立ち上がって来たわけでありました。

その後50年、幾多の変遷のなかで、太田商工会議所は、市政そして県政と密接に提携し、都市計画、工場団地造成を始め、今日両毛の中核都市として、断然たる光彩を放つにいたる各種の投資を意欲的精力的におこなってきました。商工会議所は、工業出荷額が急速に伸長しそれに付随する各種インフラが整備され、多数の若い労働者諸君が街に溢れ人口が急速に増大するにあたり、常に市、県当局に建議協力して今日にいたりました。

ここに50周年を記念し、名鑑を発刊させていただく次第です。後年傍らにその扉を開き、過去の50年目の状況を振り返られ、将来の大きな糧としていただければ幸甚のいたりであります。言葉誠に整いませんが、名鑑発刊に当りご挨拶といたします。

役員任期一覧表

■ 1989~1997 ■

1989・12~1992・11

会 頭	本島 虎太	(株) 有隣社
副 会 頭	松本 恵介	松本樹脂工業 (株)
	鈴木 清一	大鈴メリヤス工業 (株)
	石川 清一	(株) いしかわや
専務理事	柳 佳治	太田商工会議所

1992・12~1995・11

会 頭	本島 虎太	(株) 有隣社
副 会 頭	鈴木 清一	大鈴メリヤス工業 (株)
	大塩 孝三	群馬燃料 (株)
	荻原 栄一	(株) オギハラ
	石川 重政	石川建設 (株)
専務理事	柳 佳治	太田商工会議所

1995・12~

会 頭	本島 虎太	(株) 有隣社
副 会 頭	鈴木 清一	大鈴メリヤス工業 (株)
	大塩 孝三	群馬燃料 (株)
	荻原 栄一	(株) オギハラ
	石川 重政	石川建設 (株)
専務理事	柳 佳治	太田商工会議所

創立50周年記念 専務理事対談



出席者

初代専務理事	相崎 奎二	(S26～S33在任)
二代専務理事	玉置 行男	(S34～S57在任)
現専務理事	柳 佳治	(S58～)
司会者	鯨井 博	

会議所の歩みをふりかえる

草創期から 波乱怒涛の時代へ

戦後の復興に向かって

司会 本日は、商工会議所の創立から現在までの歩みを歴代の専務理事に、お話を伺いたいと思います。まず始めに初代専務理事の相崎さんをお願いします。三代にわたり、太田の戦後の復興など大変な時期だったと思いますが、ご苦労話などをお聞かせ願いますでしょうか。

相崎 創立当時は戦時中にも増して食料事情が深刻で、配給米の削減、遅配、欠配で闇屋の横行、食料の買い出し等で駅周辺の警察官の取締は大変なものでした。生活物資の不足から超インフレと食料不足で市民の生活を脅かした。従って米・麦の配給供出割当はもちろんじゃがいも、さつまいもまで供出割当で、今ではとても想像のできない状況でした。昭和25年に勃発した朝鮮戦争を契機に「糸へん」「金へん」に活気づき特需景気にわきました。このような状況ですから、会議所としてはまず第一に企業振興のための金融対策に追われましたね。特に中小企業対象の金融機関である国民金融公庫の利用を積極的に行い、その利用額は県下で一番でした。

司会 ひとつは金融対策ですね。他には何がありますか。

相崎 金融の円滑化を図るため、信用保証協会の設立に奔走しました（昭和28年9月設立）。初代会長が前橋商工会議所会頭の片倉久登氏で会議所が設立し運営の主軸でした。また、首都圏整備法が昭和31年に施行されたが、区域が首都から半径80 kmに限定されたので、この区域を100 kmに延長するよう運動して、昭和35年7月に100 kmに変更され太田市も区域内になりました。昭和23年度県は県下五市の会議所に中小企業相談所を設置して、会議所会員以外の周辺中小企業の発展育成するために相談指導することになり、当所では、周辺町村と町村商工団体と連携し巡回指導して高く評価されました。昭和33年7月米軍の大泉、太田キャンプが全面返還されたので、工場誘致や観光対策も積極的に活動いたしました。

司会 経済活動の活性化ということで、金融問題、諸制度問題を解決したわけですね。東武の問題も含めて交通対策問題ということへの対応はどんなことをおやりになったのでしょうか。

相崎 交通問題は熱心に取り組みました。

当時の交通対策は全て東武鉄道（株）が対象でしたから、東武で計画した長距離バス運営（桐生始発で太田・熊谷・大宮・浦和・東京駅八重洲口まで）が早期実現するよう公聴会に出席し強く要望しました。また、ロマンスカーの運営をするよう佐野、館林、太田、足利の大株主の意見を結集して要望し、昭和28年11月1日に開通実現しました。当時、東武の労組が五月のゴールデンウィークに毎年のようにストを行ったものですから、国鉄導入問題等の世論もありましたが、私は当市の交通対策の最終目標として、東武電車伊勢崎線の複線化が実現するよう願っています。



「交通対策は熱心に取り組みました」と相崎初代専務理事

日本の商工会議所を動かした力

司会 交通対策問題は色々な形で商工会議所が対応してきたわけですね。それまでに経済が発展を遂げてきた状況があると思うんですが、企業や人物で太田を引っばってきたという話があれば聞かせて下さい。

相崎 いつの時代でも、その地域社会の発展のためには、会議所が中心的活動体でなければなりません。その基盤を強固なものにするためには法の力を借りなければできないということで、日本商工会議所が会議所法の案をまとめて国会に提出し運動しましたが、なかなか国会審議が通らないわけです。そこで日商の三輪調査部長と中村総務部長がわざわざ来太され、対策を協議した結果、当時、国会の通産委員だった長谷川四郎先生が国会の委員会で頑張ってくれて通過した法案が、昭和28年に制定された商工会議所法なんです。この他諸々の事項について先生は指導尽力して下さいました。

今でも忘れる事はできません。尚、三代の会頭のご苦勞や初代商業部会長高瀬正七氏と委員の河内喜三郎氏、岡田喜四郎氏も当時の会議所を引っばってきた人物で、今でも脳裏に浮かびなつかしいです。

激動の時代の商工会議所

司会 日本の商工会議所のために太田商工会議所が働いたということですね。では、次に二代目専務の玉置さんをお願いしたいと思うのですが。

玉置 当時はメリヤス工業の人達が非常に発言力があつたんですよ。機械金属の方達は地味で、会議所のなかでも控えめでした。ただメリヤスさんに、私は時々頭をたたかれていましたね（笑い）。商業は旧太田が中心でした。それに対抗して新しい形態の高林、強戸、菰川という三つの地域商店街が頑張っていました。外部的には、中島飛行場跡に東京から100キロ圏のところで工業を誘致し、東京の人口を分散しようという首都圏の市街地開発地域に太田が指定されたわけです。その後、大型店の地方進出が始まったということで非常に波乱怒涛の時代を過ごさせて頂いたという印象があります。

司会 激しい変化の時期に、何か印象に残ることなどありましたら、聞かせて頂きたいのですが。

玉置 メリヤス業界がその当時大きなショーを企画しましてね。ところが会場がない。そこで小学校の講堂なら、2,000人は入るからとそこにステージを作って、ファッションショーをやったんですよ。当時は、会議所より力があつたという印象がありましたね。

国際化の中での問題点

司会 最後に柳専務をお願いします。現専務の柳さんも現在商工会議所を維持していくなかで、色々なご苦勞があるかと思うのですが。

柳 お二人の先輩が築いて来られたものを踏襲してきて、今があると思っています。現在の商工会議所が抱える問題は色々ありますが、一番目にあげるとしたら、時代の流れの中で、会議所そのものが全国レベルで考えられるようになり、太田はどうあるべきなのかという比較の上で考えられ



「波乱怒涛の時代でした」と玉置二代専務理事

るようになってきたということでしょうか。具体的に言うならば、同じような人口で同じような企業数のある他の会議所と比較して、太田の会議所は一体どうか、というようなことですね。また、二番目には、政治との関わりをどうしてゆくかということです。一番身近なところでは、市との関わりでしょうか。両方うまくゆけば産業界の改善発達にもなるし、地域福祉の向上にもなってゆく。それをいかに調整してゆくかが今後の大きな課題ですね。三番目は、財政の問題。会議所は、収益団体ではないのだけれど、ある程度の財政的調整資金がないと動きがとれない。そこで財政基盤をもっと確立しなければならないという課題がありますね。四番目には、企業そのものが国際化が進んでいる中で、会議所そのものもそうならざるをえない。外国と姉妹提携を結んだり、会議所どうしが提携を結んだりと交流も図っています。国際化が進む中で考えなければならない問題が年々多くなってきているのも事実です。企業で採用する外国労働者に対する扱いや不法滞在などから起こる様々な問題等。そんなことで、目には見えない部分での苦労は、確かにありますね。

商工会議所の今後

司会 これからの商工会議所として、どんな風に今後向かっていったらよいのか。そのポイントをお話しして頂けますでしょうか。

柳 商工会議所は商工業のためにだけあるというのをまず払拭しなければならな

い。会議所は、地域の福祉向上と商工業の改善発達ためには何でもやるべきだと捉えています。商工会議所は何をやっている所だろうと思われる事をなくすためにも会議所にサラリーマンでもその奥さんでも誰でも入ってきてもいいんじゃないかと。産業界のためだけではなく、トータルでみてゆけばよい結果がうまれると思いますね。

歴代会頭の人物像

司会 時間も迫ってまいりましたので、最後に各代会頭について、皆さんの印象に残ること、またはその人物像というものをお話しして頂ければと思いますが。

相崎 太刀川さんは（初代会頭）、指導力もあり、人情も豊かでした。とにかく苦勞人でした。温厚でね、喜怒哀楽をあまり表に出さない人でしたね。水谷さん（二代目会頭）も温厚でしたね。慎重派で、慎重すぎて会議所が何かやりたくても早く出来ないんで、相談していたんじゃないかな（笑い）。黒川さん（三代目会頭）は、自分の考えが一番という人だった。ワンマンだったけれど、あの人だから出来たということがありましたね。

司会 次に玉置さんに黒川会頭、本島会頭の横顔をお聞きしたいと思います。

玉置 黒川さんは、よく私に金山城を作りたいと言っていましたね。その城を中心に太田の発展を図るんだと。なぜお城かというと、日本の街で城があるところは必ず独特のものがあって、発展しているというんですね。だから、太田にも城を作りたいんだと。また、黒川さんは、中島飛行場跡地



「誰でも気軽に入れる会議所づくりを」と柳現専務理事

をゴルフ場にと考えていましてね。40万坪の跡地は、市では工業団地にすると殆ど決まっていたのですが、黒川さんは、太田市を特色つけるためにも絶対にゴルフ場にするんだと頑張っていましたね。一方、本島会頭ですが、西部工業団地を造成する際に、県では、よそから大企業を誘致すると言っていたのですが、本島さんは地元の企業にも土地を分譲してくれないかと担当の商工労働部ではなくて、その上の企業局へいってお話をしたんですよ。この辺は非常に強い意志をもっていて、攻め方は常に合理性を持っていました。黒川さんはストレート。独断先行タイプですね。ヒエラルキーという言葉がありますが、本島さんは同志との結束をピラミッド型に構築し、揺るぎないものとして行動していたという印象でした。

司会 では最後に柳さんに、本島会頭の横顔をお願いいたします。

柳 生真面目で細かさを口に出さない。調整がうまい。年をとっても決断力がある。意見を全部言わせても自分の腹の中は決まっている。また色々提案するんですよ。群馬県、両毛五市、関東三県に対しては非常に熱心でリード役を発揮していますね。産業界というのは広域ですから、経済活動を広域でまとめてゆこうと。行政の壁はあっても商工業界には境界や、国境はないんだと。将来の展望をもっています。また、中小企業相談所に対しても熱意があります。職員（10人の経済指導員）には、「内部の仕事を与えるな。外廻りをさせなさい。巡回が仕事なんだから中の仕事を与えるな」と言うんです。これは太田商工会議所が巡回に力を入れている最たる商工会議所ということになるでしょうね。これも会頭の考え方の中にきちんとあるからだと思いますよ。

司会 本日は、太田商工会議所の歴史がよくわかる草創からのお話や歴代会頭の人物像、またこれからの商工会議所の課題などについて大変に貴重なお話を聞くことができました。皆様の対談は次の世代にとっても大きな財産になると思います。

長時間にわたりありがとうございました。

初代会頭 太刀川 又吉

1947年～1950年

太田商工会議所の初代会頭として、戦後の太田市の経済と政治を動かしてきた実力者。鋭い洞察力と行動力、感性豊かなリーダーとしての指導力を発揮した。

二代会頭 水谷 平八郎

1950年～1957年

戦後からの脱却をはかるべく時代を担い、温厚さと着実性のある会頭として太田市が発展を遂げる大事な時期に活躍した。教育・文化面にも熱心な教育家でもあった。

三代会頭 黒川 末男

1957年～1962年

太田商工会議所の悲願でもあった会議所会館を設立。太田市の金山観光に対して熱心な取り組みをみせた。「風雲児」の異名のごとく勇猛果敢な会頭であった。

四代会頭 本島 虎太

1962年～

37才という若さで、会頭に就任。若さと実戦力、優れた指導力で今日の太田商工会議所を築きあげてきた。会頭としての就任期間は日本の商工会議所のなかでは最長である。

（年数は会頭在任期間）



「商工会議所の歴史を知ることができました」と司会の鯨井さん